

令和4年度 学校評価シート

学校名：和歌山工業高等学校定時制

校長名：松本 泰幸

目指す学校像・育てたい生徒像

- 1 生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語れる学校の3つを基本とし、魅力ある工業高校を目指す。
- 2 自己の能力を最大限に生かし、生涯において成長し続けようとする力を身につける生徒を育成する。
- 3 他者と共働して課題解決に積極的に取り組み、最後までやり遂げようとする意欲のある生徒を育成する。

学校評価の公表方法

自己評価及び学校関係者評価の結果を、インターネットのホームページによって保護者をはじめ広く公表している。

現状・進捗度

| | | |
|---|------------|---------|
| A | 十分に達成している。 | (80%以上) |
| B | 概ね達成している。 | (60%以上) |
| C | あまり十分でない。 | (40%以上) |
| D | 不十分である。 | (40%未満) |

自己評価（分析、計画、取組、評価）

| 番号 | 計画・取組 | | | | 評価（2月現在） | | |
|----|--------------------------|---|---|---|----------|--|--|
| | 重点目標 | 現状 | 具体的取組 | 評価項目と評価指標 | 進捗度 | 進捗状況 | 今後の改善方策 |
| 1 | 望ましい職業観の育成に努める。 | 入学生の多くが社会的な体験が不足であり、将来の職業について適切に考えることができない。 | 授業で学んだことを踏まえた資格取得に取り組ませる。 | 自己能力を高めるために、資格取得にチャレンジできたか。 | | 教員の指導のもと、複数の資格を意欲的に受験し合格することができた。合格者数は次のとおり。 電気工事士1種・・・1名 計算技術検定3級・・・5名 フォークリフト運転技能講習・・・5名 二級ボイラー技士・・・1名 危険物乙種4類・・・5名 危険物丙種・・・1名 | 生徒の学習支援の充実を図りつつ、自らを高めようとする意識付けを行うことで、上位検定に挑戦する機会を作っていく。そのうえで、キャリアを重ねていく行動につなげていく指導を行う。 |
| | | | 勤労意欲を高め、将来の自己実現に対する意識の高揚を図る。 | 進路意識を高めるための学年行事を年2回以上実施できたか。また、卒業後の進路について継続的に考えるよう取り組めたか。 | | 各学年においてレディネステストや進路指導のLHRなど、年2回以上の実施ができた。 | |
| 2 | 生徒一人ひとりを生かす丁寧な支援や指導に努める。 | 個々の生徒が抱える社会生活等の課題を解決するため、適切な支援をする必要がある。 | 生徒を支援する組織を作るとともに生徒一人ひとりに応じた支援を保護者と協力し行う。 | 生徒の支援の充実を図るため、生徒支援委員会を組織し、関係機関等との連携を含め、支援体制を充実させたか。 | | 生徒支援委員会を立ち上げ、特別支援教育コーディネーターを中心に、つなぎ愛シートの分析・活用と、独自の個人シートの作成・活用を行い全教職員で生徒の支援ができた。 | 生徒支援委員会のより充実発展に取り組むことで、生徒の学習面や生活面の支援を充実させるとともに、卒業後の支援もかなうよう福祉面の情報提供を行っていく。 |
| | | | スクールカウンセラーを活用することで個々の生徒を積極的に支援する。 | カウンセリングの充実を図るため、スクールカウンセラーと、担任や生徒、保護者との連携を密にし、相談が実施できたか。 | | 週1回2時間のカウンセリングを保護者を含め4月当初より実施し、1年を通じて支援できた。 | |
| | | | 生徒会行事の充実と生徒の主体的な企画運営を支援する。 | 特別活動や生徒会活動等への参加率を向上させることができたか。 | | 市立図書館での学習活動や球技大会等で同学年のみならず他の学年や年齢の離れた他者との良好な関係を生徒会を中心に築くことができ、90%以上の参加率であった。 | |
| 3 | 自ら学ぶ意欲と考える力の育成を図る | 教材の工夫や学習への動機付け等、生徒の実態に応じた授業改善の取組を推進する必要がある。 | 主体的に学習に取り組むことで基礎学力の定着を図る。また実習や実験を通じ他者と共働することの成功体験を重視する。 | 授業評価における、「わかりやすさ」や「工夫」に対する達成度が75%以上であったか。 | | 少人数で学ぶことができ、個々の学力に応じた授業展開ができ、分かりやすく工夫することができ成果を挙げた。生徒の評価「わかりやすさ」60%以上。 | 生徒による授業評価の結果、わかりやすい授業展開が図れていることが確認できた。しかしながら、内容が難しいと感じる生徒もいるので、難易度の再考など授業改善に取り組む必要がある。 |
| | | | ICTの積極的活用。 | 生徒の実態に応じ、少人数学級の展開や1人1台パソコンを活用できたか。 | | 基礎学力定着のための調べ学習や、授業の成果発表などで活用できた。 | |

学校関係者評価（1月実施）

- ① 学校運営協議会委員8名に依頼しAからEの5段階評価のアンケート調査を行った。（ ）内は昨年度<主な項目とその結果>
- ・目指す学校像生徒像がわかりやすい
A62.5% B37.5% (A50% B33%)
 - ・生徒に対しわかりやすく充実した授業か
A37.5% B37.5% (A33% B50%)
 - ・生徒の状況に応じた授業の工夫や指導ができていないか
A50.0% B12.5% (A50% B33%)
 - ・基本的生活習慣や規範意識を身に着けさせる指導が適切か
A37.5% B12.5% (A33% B33%)
 - ・進路に関する情報提供に努めているか
A75.0% B12.5% (A50% B50%)
 - ・進路選択の指導は適切か
A37.5% B37.5% (A50% B17%)
 - ・学校行事は充実しているか
A37.5% B12.5% (A50% B16%)
- 学校運営協議会委員による評価はほとんどの項目においてA,B合わせると70%と高評価である。
- また、「生徒が少ない分先生と生徒のマンツーマンで授業が受けられるのはすごく魅力的であると思います。」「仕事をしながら勉強をしている姿はとても素晴らしいと思います。「環境との相互作用で力を発揮できたりできなかったりします。環境構成を大切にしてください（環境には先生方も入ります）。」など、多くのご意見を頂戴しました。
- ② 生徒評価について
- わかりやすい授業で充実している。非行防止や薬物乱用防止等また18歳成人に関してや主権者教育など、様々な啓発活動が充実している。生徒の健康や安全に関する指導が行き届いている。などでABあわせて80%を超える高評価であった。

